



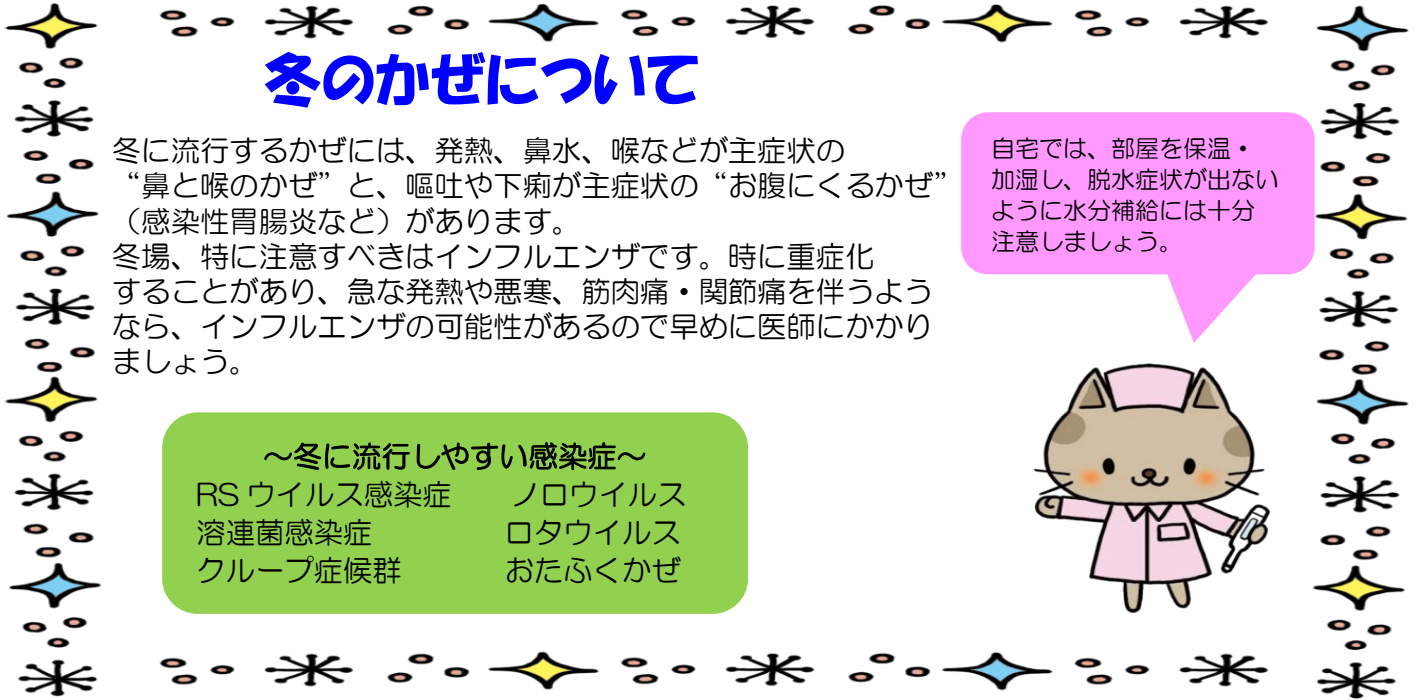
ほけんだより 2月号

2025年 2月

ニチイキッズなんこく保育園



今年の節分は2月2日。節分に向けて子どもたちの「鬼は外！ 福は内！」の元気な豆まきの声が聞こえてきます。成長とともに子どもたちが丈夫で健康な体になるように祈っています。



冬のかぜについて

冬に流行するかぜには、発熱、鼻水、喉などが主症状の“鼻と喉のかぜ”と、嘔吐や下痢が主症状の“お腹にくるかぜ”（感染性胃腸炎など）があります。冬場、特に注意すべきはインフルエンザです。時に重症化することがあり、急な発熱や悪寒、筋肉痛・関節痛を伴うようなら、インフルエンザの可能性があるので早めに医師にかかりましょう。

自宅では、部屋を保温・加湿し、脱水症状が出ないように水分補給には十分注意しましょう。

～冬に流行しやすい感染症～
RSウイルス感染症 ノロウイルス
溶連菌感染症 ロタウイルス
クループ症候群 おたふくかぜ



かぜの後の登園について

インフルエンザなどは、症状がすっかり治まった後も、ウイルスの排出が数日間続きます。家庭のみで「治った」と判断するのは控え、かかりつけの医師の診断を受け、許可をもらってから登園しましょう。幼児が登園できるまでの期間の目安は症状によって様々です。感染症にかかった時などは、出席停止期間をきちんと守り、二次感染が起こらないようにしましょう。



冬のアセモ・とびひ

アセモやとびひと言えば、夏場のイメージが強いですが、最近は暖房や厚着が原因で、冬場でもなる子どもが多いようです。子どもは代謝がよく、たくさん汗をかくので、服装は大人より一枚少なめが基本です。乳児は特におむつの中がむれやすくなるので、上下のつながったタイプの肌着はなるべく避け、時々背中に触れて、汗をかいていないかどうか確認をしましょう。

下着はアセモ予防に効果的。ただしノースリーブは脇の下の汗を吸わないので、そでのある綿素材のものを選ぶとよいでしょう。

かゆみがある場合は、病院で処方された塗り薬であれば与薬依頼票をお持ちいただく塗布できます。

